

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社鈴鹿蒲鉾本社	階数	地上3F
建設地	神奈川県小田原市風祭字中瀬 197-1、197-6、197-7、197-8、197-10、197-11、197-14、197-15、214-1、214-2、214-4、217-1、217-7	構造	S造
用途地域	第1種住居地域、準防火地域	平均居住人員	120人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,607時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2015年8月 竣工	評価の実施日	2015年11月18日
敷地面積	4,424 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社 環境デザイン研究所
建築面積	982 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,523 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 3.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 92 138 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.5**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 4.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.9

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 伝統ある会社の新本社ということで、周辺環境に配慮した「和」を基調とした落ち着いた意匠とし、内部には地元の木材を多く使用し、快適なオフィス空間を実現している。敷地周辺の恵まれた自然環境を出来るだけ利用することや、建物の外皮性能を向上させ外部要因の熱負荷を遮断することで年間の空調負荷エネルギーの軽減や省エネルギー機器の導入によりエネルギー消費量の削減を行うなど、省エネルギーオフィスとなるように計画している。		<b>その他</b> ・既存建物をできるだけ残した計画とし、事務所の機能をできる限り継続できるように配慮
<b>Q1 室内環境</b> ・高性能ガラス(Low-E複層ガラス)の採用 ・外皮性能の高断熱化 ・部屋の特性に合わせて、床吹き出し空調機、パッケージ空調機を選択採用	<b>Q2 サービス性能</b> ・ゆっくりとくろげるリフレッシュスペースの確保 ・内装に地元の木材を使用した木の風合いとあたたかみのある空間の演出 ・色温度の統一	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・既存樹木等を保存し、地域の風土にあった樹木等を植栽計画で採用 ・市の景観計画、条例に則した色彩、緑地の確保
<b>LR1 エネルギー</b> ・事務室などの大空間は豊富な地下水を熱源とする高効率水熱源ヒートポンプマルチエアコン、ツインサイクル高効率ヒートポンプ型の採用 ・個別の部屋デシカント調湿外気処理機を採用し、効率よく空調	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・節水型便器の利用や自動水洗の採用 ・リサイクル材の採用	<b>LR3 敷地外環境</b> ・建物に駐車場、駐輪場併設 ・住宅地側の開口は高窓、乳白フィルムを用いるなど近隣への配慮した計画

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される